

黒槐沢遡行～水干沢下降報告

【山行日】2016年5月9日（月曜日）

【山域】奥秩父

【ルート】黒槐沢遡行～水干沢下降

【登山方法】沢登り

【天候】くもりのち雨

【参加者】CL 小俣、SL 小原、鈴木（憲）、井上（里）、澤田（路）、清野（報告）

【コースタイム】

作場平口 9:20 → 一之瀬川黒槐沢入渓 9:40 → 水干沢合流 11:00 → 笠取山山頂

12:45 → 水干沢最初の水源 13:50 → 黒槐沢合流 14:20 → 黒槐沢出渓 15:25 → 作場平

駐車場 15:40

【内容】

小原車で中央高速道路を走り、上野原 I.C. で降り作場平駐車場に9時に到着。沢登りの装備を整え、作場平口より登山道を進む。15分程してベンチのある木橋が出てきた。ここより一之瀬川黒槐沢に入渓した。しばらくは、川幅が狭く、ゆるやかな流れを進んだ。見上げると、新緑が美しい。気象庁の本日の予報は午前がくもりで、午後からは小雨ということだが、くもり空の中ときおり日が差している。



1. 作場平口

次第に流れも速くなってきた。水はまだ冷たく、身体が冷えていった。時折、川辺の笹をかきわけたりしながら、沢の中の石を踏みながら進んだ。3mのナメ滝の上には、200mあまりのナメがあった。美しい光景だった。ナメが終わるとスモウトリ沢が小滝をともなって入っていた。しばらくごろごろした石の沢を進んでいくと、2俣になった。左俣は水干沢で、黒槐沢は右俣だ。小滝とナメをいくつか越えていくうちに、沢幅も狭くなってきた。



2. ナメ



3. 2段8m ナメ滝

流れが細くなったあたりで、左の笹ヤブに入ってしまった。しばらく、シカのフンが大量に続いている笹ヤブの獣道を進んでいくと、笠取山への登山道にでた。登ってい

くと、笠取山の2つある山頂のうちの、東側のほうに着いたが、山頂に着いたという気分を味わうことなく、そのまま通り過ぎた。



4. 笠取山への登山道



5. 東側山頂

小俣CLはすぐに登山道ではなく、急斜面のヤブに入っていった。私はまあなんて大胆なことをするものかと、不安な気持ちでついていった。その先は切れ落ちているように見えた。小俣CLは「下の方に登山道らしき道が見えるので、懸垂下降します。」と言って、ロープを出し準備をはじめた。こんな懸垂下降しなければならない斜面を降りるのは初めてだった。懸垂下降自体、今まで講習や室内でしたことはあったが、実際に危険な個所では初めてだったのでドキドキした。やってみると、意外と簡単で安全にできるということがわかった。こういう危険な斜面ではメンバーみんなが力を合わせるということも体験できて嬉しかった。降りた先は目指す水干だった。小俣CLは地図を見ながら予想を付けていたらしい。



6. 急斜面での懸垂下降



7. 水干(多摩川源流)

水干の多摩川源流が最初に湧き出ているところを通って、水干沢に入っていった。予報どおり、ぽつぽつと雨が降ってきたのでレインジャケットを着た。ごろごろした石の沢を降りていくと、黒槐沢に合流した。後は、遡行したときと同じ沢を下降した。

駐車場に着くころ、雨脚は強くなっていたが、それまでは、それほどでもなかった
ので幸이었다。

帰りは勝沼方面に行き、「大菩薩の湯」に入って、冷えた身体を温めた。帰途、「完
熟屋」という古民家風の店でほうとうを食べた。身体が温まったし、美味しかった。



8. 一之瀬川品谷出溪地点



9. 完熟屋でのほうとう